

正田洋一

市議会レポート

第 9 号

三原ロータリークラブでの卓話

五月十九日にロータリークラブの例会で卓話をさせていただきました。新人の市議会議員という立場で呼んでいただいたので、市政の話題を取り上げさせていただきました。前号の発行した議会レポートの内容と重複するのですが、今の三原の課題である「庁舎整備」および「駅前東館跡地活用」の話題を中心にお話しさせていただきました。本質は、中心市街地活性化と財政問題であることや他の三原の諸課題を私の一般質問の項目を例に話させていただきました。

また、三原が目指すべき都市像とそれに必要なことについて話させていただきました。経済界の中心のメンバーが多い、ロータリークラブのメンバーに対し、若干恐縮しながら、私の考えを語らせていただきました。また、自分の政治ポリシーについても語らせていただきました。このような機会を与えていただき、感謝申し上げます。ここで披露した内容については、機会をつくって公開するとともにブラッシュアップしていきたいと思っています。



やささ祭り 大賞受賞・しかし…

今年は、四十年記念大会、四十年連続出場の本町連合町内会出場しました。今年は本町連合町内会の当番幹事もさせていただき、花車の制作をさせていただきました。



私は、やささに出るのが好きで、毎年出場しています、東京の

サラリーマン時代にも、帰省して、出場していました。サラリーマン時代には、会社の社内報にやささ祭りの模様を掲載してもらったことがあります。本町連合町内での踊りでは、やささ好きなメンバーと隊列を整えて、踊らせていただき、

金曜日の正調部門の大賞をいただきました。しかし、賞をもらえらると思っておらず、打ち上げて盛り上がりたところ、まさかの受賞。皆様からお祝いと何やってんだの電話を多数いただきました。ありがとうございます。来年は、賞はもらえないと思っても総踊りには出ます。

三原TVのインタビューをしていただきました。トロフィーは、会場で受け取れなかったもので、打ち上げ会場で。写真はどや顔ですがお許し下さい。



三原市議会議員
正田洋一

“未来を考える”

“地域をもっと元気にする!”

ご挨拶

やささ祭りも終わり、盆踊りもおわり、だいぶ朝夕が涼しくなってきました。今回で九回目のレポートとなりました。今回は、六月議会の模様および日々の活動についてレポートします。また、三年目に突入し、委員会の入れ替えがありました。



いども出前講座【防災って何だ？】

八月二十九日、本町縁側サロン『いらは』で出前講座を実施。危機管理課の宗田さんに子どもたちにもわかりやすい説明をしてもらいました。また、防災カルタと非常食の試食なども行いました。子ども十人、大人十三人の参加で、防災意識向上のいい機会となりました。



平成二十七年第七回 定例会報告

一般質問

空き家活用について

〔空き家対策は人口獲得と経済活性化の手段〕

課題認識

「空き家対策の促進に関する特別措置法」施行されました。行政の対応として、危険空き家に対しての警告・強制執行・固定資産税の特例解除（値上げ）が、注目されておりますが、私はその先の定住促進策にむけた不動産としての価値に注目し

ています。また、その環境を整えるのが行政の役割と捉えています。

質問

空き家対策について三点聞く。空き家対策特別措置法が施行されたが、私は、不動産の適正管理だけではなく不動産としての価値に着目している。特措法施行後の対応について聞く。

一点目、特措法において、危険空き家と認定した場合、いつから所有者との協議を進めるのか。また固定資産税の特例解除（値上げ）をいつからどうやって行うのか。

二点目、三原市は、地域活性化の手段として空き家対策を捉えているのか。人口獲得の武器としてもあるが、住宅着工件数が増えれば、経済活性化の意義もある。そこで提案だが、特定モデル地域を定めて、他の自治体を取り組む前にスピード感をもって取り組んでほしい。現在、県立広島大学へ調査依頼をするとのことだが、それに合わせて、所有者等と協議にも取り組んでほしいかどうか。

三点目、不動産の流動化をする場合、民間事業者との連携が不可欠だが、どのように考えているのか。また、今までとりくんでいるのか。



回答

一点目、特措法成立後の対応についてだが、国土交通省のガイドラインに基づいて、本市も空き

家基本計画を定める。本年度は、空き家に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために実施方針や運用方法を広島県および関係部署と連携し決定する。所有者との協議、固定資産税の特例解除は、来年度以降実施していきたい。

二点目、空き家は、地域経済と人口増につながるものと認識している。しかし、この計画は、防災、衛生、景観、地域住民の生活環境の保全にむけて適正管理することを推進しているものだ。今年度、県立広島大学、市内の商工団体等で構成する三原市地域連携推進協議会の空き家状況調査によって課題を明らかにし、調査結果についても参考にしたい。

三点目、特措法の施行によって、これまで行政の踏み込めなかった民間資産への対応が可能となった。所有者や宅地建物取引業者との連携の具体策は今後検討していくが、現在、平成十九年に広島県宅地建物取引業協会と三原市で空き家バンクの相談等に関する協定を締結し、情報連携事業を行っている。また、既存の連携強化と新たな連携についても検討する。

総括

空き家を人口増の手段というメッセージは伝わったと思います。一般質問の場合は、事前通告をするのですが、その段階では、建設部門と企画部門の連携はあまりできていないように感じました。具体策は、この段階では準備不足でしたが、県立広島大学との調査については、より深く関与してきます。また、市長に対して、観光に対する経済効果と定住促進に対する経済効果の比較もしっかり考え

ていただきたいと指摘しました。観光施策を否定するわけではありませんが、ばらまき手段である昨今の観光やイベント事業ばかりでなく、定住促進について、必要な部分を精査し、お金を使うべきだとのメッセージがあります。

歴史・文化を映像で残す

「アーカイブ（映像記録）の提案」

課題認識

築城四五〇年事業を踏まえて、歴史・文化の興味が市民の皆様にも再びわき上がっていますが、その歴史・文化を映像で残して、後世に伝えたい。と考えました。また、昨今、観光PRでも映像で体験することが、誘客につながると思われるのですが、その提案をしたいと考えました。

質問

歴史文化アーカイブ（映像記録）について提案する。歴史・文化（祭りなど）は郷土の誇りであり、ずっと残したいものである。その一方で、人口減、高齢化、担い手不足により、祭りなどの行事がなくなっている。この度の提案は、その歴史・文化資産を映像に残していきたいと考えるがどうか。



意義は二つあると考えている。一つは歴史・文化の保存、もう一つは、観光事業、その素材となるという意義である。今年の神明市で三原小学校の生徒さんを中心にだるま行列が復活したが、これは一枚の写真からである。また、本町のいろはサロンでは、橋本先生の三原の歴史講座などを開催している。また、市の行事としても「小早川隆景物語」が開催されているが、これらも映像で保存し、誰でも見られるような環境を整えたいがどうか。

回答

三原の貴重な文化財の保存・継承と観光誘客の素材を残していくことは私たちの責務で、重要なことであり、対応していきたい。「小早川隆景物語」の映像記録についても撮影を行っており、講演会記録集の冊子を出す。

しかし、過去の講演等のコンテンツについては、著作権の問題や講師の問題もあり、公開できないものもあるが、整理していき公開できるものは公開していきたい。また、必要に応じて市のホームページやフェイスブック等の広告媒体を活用して情報発信に努めたい。

総括

よい回答をいただきました。今後公開の方法およびPRでの活用について、広報担当へも働きかけたいと思います。次は手法が課題だと思えますので、ブラッシュアップしていきたいと思えます。

その他議会の動き

◆議長選挙

三年目に突入し、議長・副議長選挙がありました。結果は既に周知のとおり、梅本秀明議長が誕生しました。私は、当初から同じ会派でもある梅本議員を推しており、その理由は、市の仕事をチェックする立場の議員のなかで、市長に近い存在ではなく、チェッカーとして意見を言える人、議会をまとめることができる人という意味で適任であると考えていました。また、他の会派には、自称市長与党と言っている議員がいっぱいいますが、地方議会には二元代表制であり、市長となれ合いで議会というチェック機能を仕切ってもらうのは、間違いであるし、困ります。そういう意味では、梅本議員の誕生は良い結果であったと思います。

今後は、残り二年の議会運営において、市長側と密度の高い連携関係と適切な緊張関係を保ちつつ、チェック機能を果たしていきたいと考えています。

◆議会広報特別委員会委員長に就任

委員会メンバーの交代もありました。私は、三年連続で総務財務委員会の所属となりました。庁舎・駅前東館等の整備の課題、財政問題など私が重点課題として取り組んでおり、この委員会の所管であるものが多いからです。また、議会広報特別広報委員会も再び所属となりました。議会広報特別委員会は、現

在は、議会だよりの編集機能のみですが、議会だよりのみならず広報・広聴へも範囲を広げたいと思っております。また、一部ベテラン議員の編集方針に異義があり、立候補し投票を経て、委員長にならせていただきました。議会では、ポストは当選回数と年齢順で、会派調整になるのが通例ですが、私はできる人がやればよいと思っています。生意気なことを申し上げるようですが、期が長くても全く議事進行はできない。しかし、ポストには就きたいという議員が多く有意義な委員会議論ができていないことが多々あります。

このような状況に一石を投じたいという意味がありました。私自身もしっかり職務に取り組み、よりよい議会広報を行いたいと思います。

◆ 駅前東館跡地活用委員会

駅前東館跡地活用の議論の模様です。議題は、「東館に期待する公共施設と民間施設」でした。前回までの議論で、賛否はあったものの東館跡地には、図書館と広場を軸に民間施設の提案を待つというところまで委員会で同意していました。

それに組み合わせる公共施設と民間施設を議論する場でした。会議早々、公共・民間に期待する施設について意見を求めたところ誰も手を上げず、私が以下の様に述べました。

- ① 駅前に公共施設を作るのであれば、スクラップ&ビルドの視点が必要である。
- ② 民間提案を成立させるのが目的ではなく、賑わいの創出が目的である。

③ 三原の商業売上げ、二三〇億円(推計)に対し、イオン、フジで各七〇億(予想値)から九〇億(予想値)程度と想定されイオンやフジと同等の形態でのにぎわい創出は不可能である。

④ 公的施設を中心に生活利便施設によるまちづくりと観光等のおもてなし機能という意味もふまえ、公共施設では、西館の活用含め、福祉会館、民族資料館、児童館を持つてくべき。

⑤ 民間施設では、期待施設としてホテル、病院、フィットネスなどがよい。

公共施設は、財政面での観点から作るなら統合して減らすという視点で、民間施設は、私が考える賑わいや経済活動に寄与するものとして述べました。

しかし、この議論の中で、私以外の議員に何を持つて来たいという意見はほとんどなく、私の意見に否定を浴びせるばかりの一部の議員については、残念な思いをしました。否定ばかりの議員に対しては、自分はどうしたいのか言ってみて下さいと強い口調で反論しておきました。

私が他の施設とのスクラップ&ビルドの話したのは西館も含めてであり、賑わいのために必要なものという視点で考えるべきで、時間がないので図書館でもええじゃないかではすませてはいけないという意味からです。

今回の会議は、ブログもしくは次号で報告しますが、現状「図書館・広場+民間提案に任せる」に賛成する議員がほとんどであり、だれも未来を語らない静かな議論が展開されている現実もあります。

補足

一方で市民の皆様へは、広場をそのまま残すという意見も根強くあります。ただ、現在の議論の展開では、「図書館・広場+民間提案」で民間に期待するところまでは、委員会は同意していません。しかし、私の意見では、図書館・広場だけでなく、福祉会館や民俗資料館などの公共施設の統合と同時に民間にもホテル等条件として、求めた上で、民間の応募がなければ、現在の状態に、屋根とステージ等を設けイベント(ソフト事業)で暫定活用をしてはどうかとの腹案を持っています。

引き続き、奮闘します。ご意見をいたあけたらと思います。

編集後記

今回は、配布をさせていただく頃には九月議会も始まっていると思います。文字ばかりの私のレポート、いつもいかに議論の模様をお伝えするのか葛藤しています。しかし、議会発行の議会だよりでは伝えられない自分の考えと日々の活動をお伝えしたいと思っています。引き続き、ご指導ご支援よろしくお願いします。